

科目名	在宅看護方法 I (対象別看護) In-Home Nursing I		担当教員 (研究室番号)	日比野 直子 (406)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・広域看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1 (15)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	事例をもとに、多様な療養者の身体的・精神的状況とその家族の生活について理解を深め、在宅での支援に必要な看護技術や社会資源について学ぶ。											
ディファ ンダー ホーリン (DP)	主要なDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現) F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
到達 目標	1. 在宅において医療や看護を提供するにあたり、必要となる知識や技術について説明できる。 2. 対象に応じた社会資源の内容や活用方法について説明できる。											
成績評価方法 (基準)	提出課題レポート(80%)、授業参加状況(20%)により総合的に評価する。											
再試験の有無と 基準等	科目の可否結果で不合格となった場合には、当該学生からの申請があれば面接を実施する。再試験はない。											
教科書	指定なし。											
参考書等	家族看護を基盤とした地域・在宅看護論第5版 日本看護協会出版会											
学生の主体性を伸ばす ための教育方法と学生 への期待	授業中に、講義内容に関連する問題提起を行い、自身が考えたことを発言したり記述していただきます。 模擬事例やDVDの視聴を通して、在宅療養者と家族の生活を捉え、支えることの重要性や多職種連携の必要性について考えてみてください。社会の出来事にも関心を持ち講義に臨んでください。											
備考	在宅看護学概論の単位を履修していなければ受講できない。											
回	学習項目		学習内容					主担当 教員	授業 方法			
1回	在宅療養生活を支える基本的な技術		在宅療養者とその家族を一つの単位として捉えることの重要性を学ぶ。在宅看護の基本的な「食」「排泄」「清潔」「呼吸」「睡眠」「コミュニケーション」について学ぶ。					日比野	講義			
2回	在宅で行うケアの実際 1		在宅での栄養ケアとマネジメント(栄養のアセスメント・食欲低下時・下痢や便秘時のケア・嚥下障害・脱水時のケア)					日比野	講義			
3回	在宅で行うケアの実際 2		在宅での呼吸のアセスメントとケア(呼吸管理・排痰・吸引・吸入など・呼吸困難時や緊急時の対応)					日比野	講義			
4回	療養場所の移行に向けた看護		在宅療養者と家族の意思決定支援と調整について保険者・介護保険事業者・地域支援事業者と退院支援・退院調整に関わる医療機関との連携について学ぶ。					日比野	講義			
5回	対象別在宅看護の実際 1		在宅療養しながら生活する子どもと家族を支える看護について学ぶ。(先天性疾患により治療を受けながら地域で成長していく事例)					日比野	講義			
6回	対象別在宅看護の実際 2		独居・日中独居、高齢者のみ世帯、要支援・要介護高齢者と家族を支える看護について学ぶ。(介護予防や複数の疾患を抱える高齢者・認知症患者と家族の世帯など)					日比野	講義			
7回	対象別在宅看護の実際 3		高齢者虐待、セルフネグレクトなどが疑われる療養者について自立した生活を維持するための生活支援について考える。					日比野	講義			
8回	対象別在宅看護の実際 4		在宅で終末期を迎える療養者と家族を支える看護について学ぶ。(在宅で行われる緩和ケアと看取り・訪問看護師によるグリーフケア)					日比野	講義			

学 習 課 題

1~8回共通の事前課題：学習項目の内容について教科書や関連するテキストを一読して講義に臨んでください。
 課題提出①：5回目講義開始前 在宅療養生活環境について教科書などを参考にして、自身が考えた在宅療養を継続する「健康」「安全」「住まい方」についてまとめる。
 課題提出②：6回目講義開始前 第5回目で視聴したDVD事例をもとに、地域の社会資源を調べ、対象と家族のための在宅看護について自身の考えをまとめる。
 課題提出③：7回目講義開始前 高齢者の保健・医療・福祉・介護に関する地域・在宅の課題になっていることは何かについてまとめる。
 課題提出④：8回目講義終了後 セルフネグレクトに関する課題を取り上げ、記事の概要とその記事に対する自身の考えについてまとめる。
 課題提出⑤：9回目講義終了後から3週間後に提出 在宅での看取り、緩和ケア、終末期の在宅療養などに関する書籍を1冊選び、在宅で実践された看護ケアの意義について自身の考えをまとめる。
 事前課題：第2・3回講義に関するキーワード「食欲低下」「下痢」「便秘」「嚥下障害」「脱水」「排痰」「呼吸困難」が起こる原因とその予防とケアについてまとめておく。(提出は不要だが、グループワークでは事前課題をもとに討議をする)
 * 課題作成には必ず引用文献を用い、提出レポートには引用した文献、書籍について正しい記載をする。
 * 課題は手書き不可とし、表紙は必ずつける。課題の提出方法は、講義時に説明する。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。